

○東京都 教育目標 基本方針2
基礎学力の向上を図り、子どもたちの個性と創造力を伸ばす教育を重視するとともに、国際社会に生きる日本人を育成する教育を推進する。

○練馬区教育目標
教育基本法の精神にのっとり、人間尊重の精神を基調とし、学校・家庭・地域社会との緊密な連携のもとに、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かな子どもの育成を図ります。

学校の教育目標
心身ともにたくましい児童に育てる

- 明るく元気な子ども
- 思いやりがありやさしい子ども
- なかよく協力し合う子ども
- よく考え行う子ども

○学校・地域の実態からめざす
学校の敷地は広く、四季折々の花や緑に恵まれた環境にある。また、各学年が十分に活動できる畑もある。開校137年の歴史があり、親子代々通学している家庭がある一方、他地区から新しく住民になった人も多く、家庭環境が複雑化してきている。保護者、地域の学校への関心は高い。児童は素直で活動的である。学習に対する意欲もあるが基礎基本の定着が十分でない児童もいる。すべての児童に基礎学力を定着させ、補充と発展のための学習を組織していきたい。

各教科の指導の重点

国語
○話す・聞く活動を充実する
○表現し伝え合う力を高める
○思考力・想像力を養い豊かな心情を育てる
○問題解決的な学習活動を充実させる
○社会の一員という自覚をもたせる
○社会に関わるための基礎基本の力を育てる

算数
○筋道を立てて考える力を育てる
○計算や作図等の技能を育てる
○数量や図形等の基礎基本の力を育てる

理科
○問題解決的な学習活動を充実させる
○自然や生命を愛する心情を育てる
○科学的な見方や考え方を養う

音楽
○豊かな感性を育成する
○表現力を伸長する
○技能の養成をする

図工
○豊かな情操を育成する
○表現力・創造力を育成する
○技能の養成をする

家庭
○家庭生活をよりよくしようとする態度や家族を愛する心情を育てる
○衣食住への基礎的知識と技能を育てる

体育
○健康の増進と体力の向上を図る
○協力、公平などの態度を育てる
○健康安全に対する知識を身に付ける

生活
○体験や具体的な活動を重視する
○生活上必要な習慣や技能を育てる
○自立への基礎的能力や態度を養う

学校経営計画

- 子どもが学ぶ楽しさや達成感を味わうことができる学校

「基礎・基本となる学力の向上と思考力、判断力、表現力の育成を図る。」

- ・年間指導計画に基づいた「週ごとの指導計画」の作成提出
- ・基礎的、基本的な学習内容の定着
- ・規律ある学習習慣の確立
- ・研究、研修の充実

道徳教育の指導の重点

- 「明るく元気な子ども」を育てる。
- 児童の実態に即し、計画的、発展的なを行うことによって各教科、領域で行う道徳教育の深化、統合、補充ができるようにする。

特別活動の指導の重点

- 児童の自発的、自治的な実践活動を通して自主性と個性の伸長を図り、集団の一員としての自覚を高める。
- 学年、学級、縦割り班などの異年齢集団の中で、心の交流を図り、望ましい人間関係を育成する。
- 学校行事や集会活動を通して、学校生活の充実のために進んで活動する意欲や態度を育てる。

本校の確かな学力

- 学ぶ意欲
 - ・児童の学習に対する興味・関心・意欲を大切にする。
- 基礎的・基本的な学習内容の定着と向上
 - ・体験的な学習や問題解決的な学習を重視し、基礎的基本的な内容の確実な定着と向上を図る。
 - ・学習活動の基になる読書活動の充実を図り、継続的な取り組みを推進していく。
- 豊かな人間性を育む
 - ・児童一人一人の考え方を生かせる学習活動を設定し、創造的な思考力や適切な判断力を育てる。

生活指導の重点

- 生活の基本的習慣や基本的行動様式の定着を図り、心身の調和のとれた人格の形成を図る。
- 豊かな人間関係を育み、豊かでけじめのあるたくましい児童を育てる。
- 一人一人の個性や能力を伸ばし、生涯にわたり自らを高めていく素地を養う
- 社会の一員としての自覚を高め、自己実現を図る能力と態度を培う。

外国語活動の重点

- 外国語に触れたり、外国の生活や文化等に慣れ親しんだりする体験を通して差別や偏見のない国際的視野で物事をとらえられるようにする。

総合的な学習の指導の重点

自ら課題をとらえ、学び、考え、判断し、主体的に問題解決できる能力を育てる。また、自分のよさや可能性に気づき、自らの生き方を考えることのできる能力を育てる。

- 問題解決学習を多く用い、解決の手段や方法、学び方や考え方、自己表現力を育てる。
- 一人一人の興味関心を大切にする。
- 他人への思いやりや互いに認めあって生活しようとする能力を育てる。

本校の授業改善にむけた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ○学力調査の結果や授業による評価を分析し、各学年・各教科ごとに指導の重点を設定し、指導法の改善工夫に向けた具体的な取り組みを実践する。 ○体験的な学習や問題解決的な学習を重視する。 ☞基礎的基本的な内容の確実な定着と向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数学習やT.Tでの学習を取り入れ、課題別・習熟度別など学習の工夫を図る。 ○積極的に自然体験の活動を取り入れ、知的好奇心や探求心を大切にした学習を行うことにより豊かな心を育成する。 ○学習活動の基盤となる読書活動を行う。 ・朝読書の時間・読書旬間 	<ul style="list-style-type: none"> ○「健やかな心と体の育成」(体力の向上)をテーマにして研究を進める。低学年分科会、中学年分科会、高学年分科会を作り、研究授業を行う。 ○新体力テストの結果から、実態把握と分析を行う。 ○研究授業を行い確かな指導法を身に付けていく。 ○先進実践校や区内のモデル校に学ぶ。 ○担任は、体育授業の授業を1回は公開し、授業力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力調査の結果を全校で分析し、各学年の傾向とも照らし合わせて全体の見直しをする。 ○各学年で、各教科の目標に準拠した評価を計画的に行っていく。 ○学力調査の結果の分析や評価したことを学校ホームページに載せ、外部からも意見がいただけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公開日等に保護者・外部の方たちのアンケートを実施する。これらの評価を授業改善、学校経営に生かしていく。 ○地域の方々と積極的に交流を図るように努力する。(生きる力を育む活動) ○学校評議員の評価を重要な項目として生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校区別協議会における協議で各学校の生活面・学習面の課題を把握し、学習内容だけでなく、学習規律や問題解決学習等の学び方において、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を検討していく。 ○小中一貫教育実践校の実践例に学び、小学生による中学校での体験授業を実施する。